



新型コロナウイルスの感染防止と

体育会OBOG会長連絡協議会の今後の活動について

会員の皆様に置かれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、OBOG 会長会の活動に対してご支援とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。また、体育会の OBOG として、自団体の運営と学生達へのご指導とご支援にご尽力を尽くされ敬意を表する次第です。



A. 新型コロナウイルス感染防止について

2019年12月、中国の武漢市において原因不明の肺炎が猛威をふるい、そこから始まった新型コロナウイルス問題は、ご承知のように、世界の感染者数900万人・死者数47万人、日本では感染者数1万8千人・死者数1千人と膨れ上がり、世界の大問題となっています。

その影響は、成蹊学園にも拡大し、「卒業式中止！入学式中止！桜祭中止！大学内の立入禁止！授業中止！クラブ活動禁止！学内施設使用禁止！集会禁止！大学職員の在宅勤務！等々」となりましたが、皆さん！このような事態の発生を予測出来ましたか？

そして、新型コロナ問題は社会経済にも大きな打撃を与え、日頃、アルバイトで生計の一部を立てている学生達も経済的に困窮し、大学の生活やクラブ活動の継続が困難な学生も出始めてきており、政府による「新型コロナ学生支援緊急給付金」や大学と成蹊会が先日、共同で実施した「新型コロナ成蹊会特別支援金」への申し込みも増加しています。後輩の学生達が新型コロナ問題によって、学業やクラブ活動を続けることが出来なくなることは絶対に避けなければなりません。

日頃から、各運動部員達への指導と支援を目的としている各 OBOG 会は、その状況を理解し新型コロナ問題で困窮している団体や学生達を金銭的な支援も含めて、全面的に支えていく必要があります。戦う相手が新型コロナという未知の強敵であり難しい問題ですが、各 OBOG 会の支援活動の真価が問われている問題とも言えます。

また、このような状況下で大学内の課外活動に対して、新型コロナ問題の安全対策や安全管理を実施しているのは、学生部の境部長、学生部学生支援事務室の熊崎課長です。大学体育会内の団体や学生達に対して種々の新型コロナ対策を指示し管理していますが、その都度、OBOG 会長会宛てにも、その情報を発信して頂き、皆様に適時配信しています。

この連携によって、大学の新型コロナ問題に対する基本的な考え方や規則を理解することができ大変貴重な情報と感謝しております。このことは、体育会の OBOG と学生達と大学学生部との情報の共有化と活動の一体感「オール成蹊！」の醸成に役立っており、学生部との連携の重要性を感じております。

2020年5月27日、体育会本部の学生達から「課外活動再開への願出書」が学生部に提出され、北川学長と学生部で検討の結果、6月9日、体育会クラブ活動の段階的な再開ルールが決定されました。

結果、6月21日より蹴球部、ラグビーフットボール部、漕艇部などが許可され、活動が再開されました。

これは、屋外の指定施設使用の団体に限って、各部毎に新型コロナ問題への安全対策や規則を書類にまとめ、学生部学生支援事務室と協議し、承認を受けて活動の再開許可（期間は7月末まで、8月以降は別途検討）となるというものです。これらの安全対策書類関係は、各スポーツ分野の協会や連盟で作成されたマニュアルを基本として自団体用に改善したもので、そのマニュアルやチェックリストが実際の活動時に十分に活用できるものでなければ許可は下りません。再開後、1人でも感染者が発生した場合は全団体の活動が中止となってしまいます。

安全管理などの経験の少ない、そして書類づくりの未熟な学生達には、OBOGの経験的知識による指導が必要になります。是非、各OBOG会の支援の強化をお願いする次第です。

また、屋内施設を利用する団体は、換気等三蜜問題の解決策の検討（大学に対する設備改善案も含めて）や安全対策のまとめ、活動再開願出書の提出、学生部との事前協議等が必要になると思われませんが、OBOG会長会を通して、お互いの連携を強化し、早期の再開を目指したいと思います。

学生達が新型コロナ問題の安全対策を自ら企画し、クラブの活動を管理し、運営して、結果ができれば、その活動を通して、課外活動の理念である真の人間形成に役立ち、課外活動の真価を体験することができると思います。この世界的な問題が如何に進展していくのか？未知の部分も多いのですが、OBOGの皆様のご支援をよろしくお願いします。

B. 体育会 OBOG 会長連絡協議会の今後の活動について

2020年6月、第7回「OBOG会長連絡協議会」総会を開催して、更なる活性化を図るために会の組織を連絡協議会から連合会に格上げして、「（仮）体育会 OBOG 会連合会」を発足させるべく、昨年9月頃から世話人会で検討を進めてきました。しかし、この新型コロナ問題のお陰で動きが取れず、作業の延期と総会開催の延期を止む無く決定しました。新連合会の名称、規約、会員、予算、会費、役割と役職など新連合会の基礎的な部分は、ある程度まとめていますが、各団体の会員の皆様のご理解とご要望など詰め作業が残っています。また、毎年、実施してきた各OBOG会の活動状況のアンケート調査も延期をしました。新型コロナ問題の動向は不明ですが、7～10月に世話人会において協議を継続し、半年遅れの11～12月に総会を開催し、新連合会を発足させたいと考えております。

その節はよろしくお願ひいたします。

参考に、OBOG会長会の設立経緯と活動事業について記します。

1. OBOG 会長会の設立経緯について

OBOG会長会の設立総会は2012年4月に開催されました。設立の動機やその背景は、2012年の成蹊学園創立100周年と2010年12月に発生した空手部事件が大きく関わっています。

2011年、成蹊会スポーツ振興委員会と体育会 OBOG の有志が集い、「創立100周年を迎えるにあたって成蹊スポーツと体育会の更なる発展」のために、そして「空手部事件のような体育会不祥事の再発防止」のために協議会の結成が決まり、有志が世話人となり設立総会の検討を始めました。

第1回設立総会～第5回総会までの世話人は、会長貴島健治（1963政卒、ラグビー）、副会長御厨雅宏（1969工卒、サッカー）、副会長武田彰（1972経卒、硬式テニス）、事務局長木村明彦（1969政卒、バレー）、丹羽秀夫（1969政卒、ヨット）、力石浩（1972法卒、サッカー）、水谷一郎（1970工卒、陸上競技）、三居勝一（1976法卒、弓道、故人）、鈴木茂之（1977法卒、スキー）、尾日向多津子（1974文卒、工バスケット）、赤石益輝（1985経卒、アメフト）の11名で世話人会を結成し、協議会を運営してきました。

第6回2019年総会から、貴島氏、武田氏、丹羽氏、水谷氏、鈴木氏、三居氏（故人）が退任し、相談役として高所からご指導を頂くことになりました。

2019年度からの世話人体制は、会長御厨雅宏、副会長木村明彦、副会長山田豊（1968政卒、ラグビー）、副会長本間秀雄（1972経卒、硬式野球）、事務局長小町敏則（1971法卒、ヨット）、力石浩、赤石益輝、尾日向多津子、諸見里光（1979経卒、バスケット）、江橋治郎（1979法卒、硬式テニス）、八木忠則（1976法卒、ラグビー）、宮下尚麿（1985経卒、サッカー）、の12名で運営をしています。

会員数は、体育会40団体のOBOG会長や各団体OBOG会幹部で総勢約150名となっています。

2. OBOG 会長会の活動事業について

2014年設立総会において、会の設立目的が決議されました。

【本会は、建学の精神を基本として**成蹊大学体育会の健全な発展のために**、体育会のあるべき理想の姿を模索し、その実現のために**会員の英知を結集し、有益な提言・支援を行う**とともに会員相互の親睦を深めることを目的とします】

*「建学の精神」⇒ 品性の陶冶・個性の尊重・勤労の実践

*成蹊大学体育会の目指す人材⇒ 《**文武両道を基本として、社会で活躍できるリーダーの育成!**》

設立から6年経過しましたが、体育会活動の発展に向けて、会員の皆様と共に有益な提言・支援を学生部、及び体育会本部と連携を取りながら協議会の運営を進めてきました。具体的な主な活動を記します。

① 体育会の健全な発展に向けた提言・支援活動

*他大学の体育会運営組織や実態運営の定期的調査（早稲田、慶応、筑波、学習院、甲南、上智調査）

体育会のOBOG連合会を保有している大学は多数ありますが、会員の親睦目的の団体が殆どです。

実質に有効な活動が展開されており、成蹊として参考になるのは、早稲田・慶応・甲南大学でありその活動が参考になります。

*体育会の諸規定の配信と行動徹底のための提言（学生部との連携）

*体育会活動の安全管理の徹底、不祥事再発防止（学生部課外活動助言委員会への参画）

*指導者の資格「スポーツリーダー」の取得推進、学内資格「課外活動リーダー」取得推進

*学生部主催アスリートセミナーへの参画（年2回開催）

*リーダーズキャンプへの参画（年1回開催）

*体育会各団体（学生）の活動状況アンケート結果の分析と問題点の把握（学生部にて調査）

*大学スポーツ新潮流の「日本版NCAA」の動向調査と把握（学生部と連携）

②OBOG 会長会の広報活動、会員の親睦活動

*「マスターズ・アスリート・ニュース（SMAN）」の定期的発行、会の情報の共有化

*総会・セミナー・説明会等の開催

*総会・セミナー開催後の親睦会の開催

*体育会各団体の周年記念行事への参画

③関係部門との連携強化と密な交流

*学生部、学生部学生支援事務室との連携強化、親睦会の開催

*体育会本部との交流と支援

現状、体育会本部は、4大学競技大会、学内スポーツ大会、樺祭りなど行事推進本部の活動が

主であり、体育会 40 団体の活動の管理本部の役割は停滞しており、改善が必要である。

* 学園長、学長、成蹊会、管財部（施設関係）への定期訪問、情報交換等

④会の運営活動（事務局）

* 会員名簿、連絡網の整備、情報の受発信

* 総会、セミナー、世話人会等会合の段取り、資料管理

* 会計、予算、決算報告（年会費は無し）

* OBOG 会長会内の資料閲覧システムの構築

以上が OBOG 会長会の活動ですがこの 6 年間、世話人を中心に皆様の支援を受けながら活動してきました。

OBOG 会長会の活動は、学生部との連携が一段と強化され、大学体育会の公的な提言機関として認識されており、学園長・学長にもご理解を頂いています。更に会の発展と活性化のためには、人材と資金の増強が必要であり、新連合会として活動の拡大を目指していききたいと思います。

新規に計画している活動としては下記です。

* 監督、コーチに対する「（仮）指導者マニュアル」の作成（安全管理の徹底含む）

* 監督、コーチに対する指導者会議の開催

* 体育会や各団体の歴史資料のまとめ（各部団体周年行事への支援）

* 有名人、社会人（成蹊 OBOG 含む）講師によるセミナーの開催（就活支援含む）

* その他

会の設立経緯と活動について記してきましたが、会員の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。成蹊大学体育会を卒業された皆様の成蹊と後輩に対する愛情のエネルギーを燃やして頂いて、自団体への支援活動も含めて、新 OBOG 連合会への参画とご支援を心からお願い申し上げます。 以上

Information 重要なお知らせ

□2020 年 4～6 月は、新型コロナウイルスの感染拡大問題の進捗が不透明ななか、卒業式中止、入学式中止、大学内の立ち入り禁止、クラブ活動の禁止等々となり、各クラブにあっては新入部委員の確保もままならない状況となっています。OBOG 会の皆様が支援を差し伸べられる良いチャンスです。よろしくご指導・ご支援をお願いいたします。

編集責任者 木村明彦

